

# Rapport

2019  
Number

108

多摩大学 | 広 報 誌 |

## Vol.108 Contents

2019「よい仕事おこしフェア」.....	02
「グローバル化する観光産業の人材育成と活用VIII」シンポジウム.....	02
多摩大学 第11回高校生小論文・スピーチコンテスト.....	03
第31回多摩祭 .....	04
第13回SGS Festa .....	05
ジェロントロジー企画 .....	06
経営情報学部 後援会主催 就職セミナー.....	07
多摩地域の名所・旧跡⑤【日野宿本陣】.....	07
多摩大学フットサル部 優勝報告 .....	08

## 多摩大学と“よい仕事おこし”フェア実行委員会が包括的連携に関する協定を締結

2019年10月7日・8日に東京国際フォーラムで行われた「2019 “よい仕事おこし” フェア」(主催「“よい仕事おこし”フェア」実行委員会、事務局：城南信用金庫)に多摩大学がブースを出展しました。このイベントは、全国の信用金庫と各地の名産やモノづくり企業などに相互の出会いとマッチングの機会を提供するものです。今年度は521の企業・団体が出展し、2日間の来場者数は過去最高の47,600人にもなりました。

本学ブースでは、産官学民連携センターの事業紹介やジェロントロジー研究内容を展示して説明を行い、多くの皆さまからご好評をいただくことができました。また、各ブースを取材してイベントの新聞瓦版を作成する新聞記者体験(協力：東京新聞社)には、本学の広報スタッフの学生が参加しました。

また、2019年10月18日には城南信用金庫本店と「包括的連携に関する協定」を締結しました。締結式には本学の杉田文章副学長、経営情報学部の長島剛教授、城南信用金庫の川本恭治理事長、下谷康博副理事長が出席しました。今後は地域活性化と産業の振興を図るため、地域社会の発展に寄与することを目的とし、地域支援・地方創生等の取り組みに向けて推進していきます。



会場の様子



開会式



出展ブースにて大学のPR



新聞記者体験では取材も



真剣に指導を受けています



杉田文章副学長



多摩大学と城南信用金庫本店との締結式

## 「グローバル化する観光産業の人材育成と活用Ⅷ」シンポジウム

2019年10月7日、藤沢商工会館ミナパークにて、グローバルスタディーズ学部主催のシンポジウム第8弾として、「グローバル化する観光産業の人材育成と活用Ⅷ」を開催しました。このシンポジウムは藤沢市における観光・ホスピタリティをテーマとするもので、鈴木恒夫藤沢市長を始め行政関係者や市民など多くの方々の参加がありました。

グローバルスタディーズ学部は藤沢市を中心とした湘南地域への貢献を念頭に、ワークショップ等を通じて2019年以降のセーリング・ワールドカップおよび2020年のオリンピック・パラリンピック開催地としてのアウェアネス(認識・意識)の向上に取り組んでいます。また、本学部においても今秋には昆明市(中国雲南省)の2大学から計5名の留学生を受け入れるなど、藤沢市と昆明市の姉妹都市友好協定の促進に積極的な関与を行っています。

安田震一 副学長(兼)グローバルスタディーズ学部長は「大学として藤沢市の姉妹都市提携の促進を教育の面から支援したいと考え、姉妹都市にある大学と提携。今年の9月よりウインザー市(カナダ)から1名、昆明市から5名の学生を受け入れている。8月20日から26日まで本学部の学生が昆明・上海へ研修を行い、世界遺産の石林やアジア最大の花市場、上海外灘などを参観。学生交流をますます活性化させていきたい」と報告。当日、留学生も出席し自己紹介を行いました。研修に参加した学生は「中国を訪問しイメージが大きく変化、もっと中国をよく見る必要があることを学んだ」と感想を述べました。鈴木恒夫藤沢市長は「藤沢市が海外の方と共生できる社会となり、素晴らしい印象を持っていただけるように協力し合っていきたいと思う」と挨拶しました。李崗(リ・ガン)専任講師は、講演「観光における多者連携と価値共創」で、世界的に注目される観光産業、訪日外国人観光客の地方への浸透、旅行者観光行動の変化や課題、観光を成功させるためのポイントについて発表しました。また、寺島実郎学長は基調講演「令和なる時代に向けて」において、資料集『寺島実郎の時代認識 2019年秋号』を参照しながら、エネルギー情勢の推移、世界におけるGDPの変化、技能五輪国際大会の成績状況、株式時価総額から見たデジタル・エコノミーの構造などから、世界の中で現在の日本が置かれている状況について講じました。



安田震一 副学長(兼)学部長の挨拶



鈴木恒夫藤沢市長の挨拶



李崗専任講師の講演



寺島実郎学長の講演



会場の様子

## 多摩大学 第 11 回高校生小論文・スピーチコンテスト

### テーマは「人生 100 年時代をどう生きるか」、「私の志」

多摩大学では「ジェロントロジー（高齢化社会学）」という学際的学問に取り組み、人生 100 年時代といわれる異次元の高齢化に対して、広い視界から社会総体のあり方、人間の生き方を探り、新しい構想を提起しています。今の高校生の半分以上は 100 歳以上まで生きると予想され、これからの 80 年以上の長い人生をどう生きていくのかは若者にとって身近な問題でもあります。

「多摩大学 第 11 回高校生小論文・スピーチコンテスト」の今回のテーマは、人生 100 年時代をあなたはどのように生きるのか、それを支えるあなたの『志』とはどのようなものかを高校生に問いかけるものでした。今年 7 月 1 日から 9 月 13 日までを募集期間とし、小論文部門では 1,301 点、スピーチ部門では 20 点の応募がありました。

### 自らが抱く「志」を熱意をもってスピーチ

2019 年 11 月 9 日には多摩キャンパス T-Studio にて、「多摩大学 第 11 回高校生小論文・スピーチコンテスト」スピーチ部門の最終選考会と表彰式を開催、最優秀賞には郷右近夏海さん（神奈川・大船高校 3 年）の「好奇心と 100 年生きる」、優秀賞には関夏楠さん（東京・大江戸高校 3 年）の「無理せず生きる」、さらに佳作 5 名が選ばれ、実行委員長の杉田文章 副学長（兼）経営情報学部長から表彰状が授与されました。

審査は、「全体的な表現力・構成力」「テーマに基づき優れた感性や個性が感じられるか」「次世代を担う若者として期待や希望を感じられるか」「実現可能性があるか」の 4 つの観点で総合的に行い、最終選考会では 6 名の高校生がそれぞれの「志」を思いを込めて力強くスピーチをしました。

スピーチ部門審査員長の下井直毅教授は、「自らの体験に基づくすばらしいスピーチが多く審査に苦労した。最優秀賞の郷右近夏海さんのスピーチは、身近の具体的な例を挙げたことで高校生らしいまっすぐな思いが伝わってきたことが良かった。優秀賞の関夏楠さんは、たいへん落ち着いた自然体のスピーチで、心理学を学びたいという目標を明確に示したことはすばらしかった」と講評しました。

一方、小論文部門では、最優秀賞が福留三咲さん（福岡・筑紫丘高校 2 年）の「『心』を大切に」、優秀賞は小林寧緒さんの「車のガラスを開けるときの」（東京・学習院女子高等科 2 年）、佳作 5 名、入選 6 名の作品が入賞しました。



杉田文章副学長（兼）学部長より表彰状の授与



スピーチ部門審査委員長の  
下井直毅教授



スピーチ部門入賞者（前列）と審査委員（後列）

経営情報学部  
【多摩キャンパス】  
第31回  
多摩祭

グローバルフェスタ 2019 in TAMA  
時代～過去・未来へタイムスリップ～

2019.11.9sat-10sun

今年度の多摩祭のテーマは「時代～過去・未来へタイムスリップ～」。平成から令和に元号が変わり、時代の変化を感じてもらえるような企画や、来年の東京2020オリンピック・パラリンピックをイメージした企画が揃いました。屋外にはゼミやサークルによる模擬店が並び、芝生エリアでは紙漉きや藍染めの体験、地域の特産品の販売など幅広い年齢層の方も参加できるイベントを用意。アリーナでは射的やスーパーボールすくい、輪投げ、お菓子すくいなどの「ちびっこ縁日」、ゼミによるVRゲーム体験、鉄道模型展示・走行などを開催。キャンパスには学生の家族や友人、親子連れなど多くの方々が集い、体験したり交流したり思い思いに学園祭を楽しみ、会場は活気にあふれていました。

イベント

- ◎仮面ライダーゼロワンショー
- ◎スター☆トゥインクルプリキュアショー
- ◎わくわくスタンプラリー
- ◎カードゲームアカデミー
- ◎ミニオープンキャンパス
- ◎多摩大学地域連携フェスタ  
(スマホ相談室、牛タン入りつくね、野菜販売、飛騨高山 団子・おしるこ、昭島市の魅力発信、リンゴ・リンゴジュース販売、奥多摩治助イモ、ネコサボ・トクイのカケハシ)
- ◎小論文・スピーチコンテスト表彰式
- ◎後夜祭 (お笑いライブ・ビンゴ大会)



◎国際交流企画 留学生との交流、留学関連のパネル展示。

◎村山貞幸ゼミ 藍染体験。



展示・体験・発表

- ◎中村その子ゼミ多摩祭ラジオ放送
- ◎回してまわろう奥多摩ガチャポン
- ◎ちびっこ縁日
- ◎脳波について知ろう、  
脳波を実際に体験してみよう
- ◎鉄道模型 展示・走行会
- ◎ダンボール迷路
- ◎VR 屋敷
- ◎F.E.I.T アナログゲーム体験会
- ◎簡単なギター教室
- ◎手作りハーバリウム
- ◎ミット打ち体験
- ◎国際交流企画 (ゲーム・切り絵・缶バッジ制作)
- ◎教員成果展示
- ◎ホームゼミパネル展示
- ◎多摩大学体育会活動紹介
- ◎日本から発信したいダークツーリズム

模擬店

ゼミやサークルによるたこ焼き、ピザ、フランクフルト、焼きそば、焼き鳥、タピオカドリンクなどの飲食店が出店。



◎出原至道ゼミ VRを中心に様々なIT技術に関する研究成果を展示。



◎石川晴子ゼミ 英語で遊ぶゲームと親子で工作を体験。

公開講座

- ◎大森拓哉ゼミ「ラグビーワールドカップに学ぶ東京2020成功への鍵」 フローラン・ダバディー氏、中西哲生氏
- ◎石川晴子ゼミ「キッズイングリッシュ『英語で遊ぼう』」

# SGS Festa 13<sup>th</sup>

Connection～繋がり～

2019.11.2sat-3sun

13回目の開催となる今年度のテーマは「Connection～繋がり～」。学園祭委員をはじめ、SGSの学生、教職員、地域の方々、さらに留学生を中心に世界規模で繋がりたいという思いが込められました。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に伴い、今回初めて、パラリンピックの正式競技であるボッチャの体験会が行われました。屋外には各クラスや後援会による模擬店が並び、体育館ステージではサークルによるパフォーマンスの発表、音楽やお笑いのライブ、E棟教室では、研修発表会、講演会、留学フォーラム、就職セミナーなどを開催。子どもから大人まであらゆる世代の方々楽しんでもらえるよう心を配り、異文化を体験できる国際色豊かな学園祭となりました。



### イベント

- ◎ボッチャ競技体験会
- ◎六会中学校吹奏楽部演奏会
- ◎Dance & Freestyle Football
- ◎チロルライブ
- ◎せりかなライブ
- ◎音多摩ライブ
- ◎お笑いライブ
- ◎池袋歌劇団
- ◎ダンスサークル発表
- ◎JAZZサークル発表
- ◎藤沢三曲協会演奏
- ◎ミニ・オープンキャンパス
- ◎フェアトレードマーケット

### ◎ボッチャ競技体験会

藤沢市東京オリンピック・パラリンピック開催準備室の協力によりボッチャ競技体験会を開催。



### ◎ Marine Sports Circle

マリンスポーツを楽しみながら、企画、安全、環境、ビジネスなどを学ぶ。



### ◎ Realize「～ PlayEng～」

英語の歌やゲームなど、身体を使って楽しく英語で遊ぶ。



### 模擬店

中庭では各クラスが出店し、焼き鳥、唐揚げ、チヂミ、ワッフル、じゃがバターなどを販売。



### 発表・セミナー

- ◎沖縄研修発表会
- ◎多摩大学留学フォーラム及び就職セミナー



### ◎下野多佳子氏 講演会

タイトルは「海外のホテル、日本のホテルで働いてーホスピタリティの大切さー」。海外、日本のホテルでの体験談やホテル業界の魅力等を講演。



### ◎留学フォーラム

交換留学生が母校を紹介。海外留学体験者によるパネルディスカッション。

### サークル・ゼミによる出展

- ◎訪日外国人の「食」を知ろう! (竹内ゼミ)
- ◎～ PlayEng～ (Realize)
- ◎日本の英語村実態調査 (大場ゼミ)
- ◎たかえちゃんのスープ屋さん (田中ゼミ)
- ◎当てる? 当てない?? (バドミントンサークル)
- ◎美味しすぎる焼きおにぎり (バレーボールサークル)
- ◎私達は一つの村に住んでいる (Zion's club)
- ◎縁日 (EPU)
- ◎海賊版被害統計データ (渡邊ゼミ)
- ◎花展 (華道サークル)
- ◎Creation 作品展示

## 第8弾 「山梨県南アルプス市で稲刈り×講座」を実施

「多摩大学 寺島実郎監修リレー講座」の受講者を対象に、農業体験を通して、リタイア後の世代が新たな社会参画を考える企画として2017年より開始、今回で8回目の実施となります。10年後にリニア中央新幹線が結ぶ山梨県南アルプス市との連携で「稲刈り体験」×「講座」バスツアーを実施しました。

午前は、第7弾に「田植え」体験を行った田んぼに向いました。前回ぬかるみの中、慣れない長靴を履いて行った作業は決して楽ではありませんでした。しかし、4ヶ月ぶりの田んぼには、黄金に輝いた美しい稲が広がっており大変感動しました。たわわに実り頭を垂れ、色づき始めた田んぼはまるで皆を待っていたかのような風景でした。

早速、今回の目的の一つとなる「稲刈り」を体験。少しずつ成長した稲はしっかりと根を張っていたため、大人が引っ張っても抜けるものではなく、一束一束、丁寧に、かつ力強く刈り取る必要がありました。

たくさんの人員がありながらも一つの田んぼを刈り取るのは大変な作業。そこで稲を刈る役とまとめて縛る役で分かれて作業を行いました。すると最初はぎこちなかった稲刈りも慣れるとさくさくと刈ることができ、終わりに差し掛かると皆が経験者のような手つきとなって作業を行っていました。その後、まとめた稲をよく日の光に当たるように「うし」をつくり干しました。前回の体験から4ヶ月、力強く育った稲の収穫はとても大変でしたが、達成感からか皆からは笑顔が溢れていました。

昼のプログラムは、疲れた体を癒すため、「かまなしの湯」へ移動しました。温泉につかった後は昼食。「棚田米と野菜を中心としたベジ弁当」をいただきました。先ほどまで作業していた棚田で作られたお米やお肉を一切使用していないお弁当はとても健康的で、食べ応え満点なお弁当となっていました。

午後のプログラムでは、「南アルプス市の歴史文化体験」をしてもらうべく、今年リニューアルオープンしたふるさと文化伝承館へ移動しました。当日は「伝承館 あきまつり 2019～〇博のがっこう～」として、火起こし体験や土偶のお顔作り、千歯扱き体験などが行われており、皆さんにも五感を使って、歴史の厚みに裏付けられた南アルプス市の魅力を体験していただきました。

その後、「南アルプス市の歴史文化体験」講座では、南アルプス市の歴史を語る上で切り離すことができない「水」との暮らしや知恵を、国重要文化財の鋳物師屋遺跡跡出土品をはじめ、土器や石器、昔懐かしい民具などを実際に見て、触れて、体験することでしっかりと学ぶことができました。動き通しの一日でしたが最後まで参加者全員が楽しむことができました。



### ◇講師

- (1) 農業体験民宿「南アルプスサンクチュアリガーデン」オーナー 上田 睦美
- (2) 南アルプス市教育委員会文化財課 学芸員 齊藤秀樹

### ◇施設概要

- (1) かまなしの湯（釜無レクリエーションセンター） [http://yamanashikotsu.co.jp/kai\\_spa/kamanashinoyu/](http://yamanashikotsu.co.jp/kai_spa/kamanashinoyu/)
- (2) 南アルプス市 ふるさと文化伝承館 <https://www.city.minami-alps.yamanashi.jp/sisetsu/shisetsu/bunkazai-densyokan/>

## 経営情報学部 後援会主催 就職セミナー

2019年12月1日、多摩キャンパスにて「経営情報学部 後援会主催 就職セミナー」を開催。南雲博之後援会会長による挨拶の後、第1部では教員や専門家による就職状況の最新情報を講演、第2部ではゼミ別懇談会・キャリア相談会・事務局個別相談会を行いました。

### 第1部 講演

○「多摩大学の就職実績、就職支援体制について」 杉田文章 副学長（兼）経営情報学部長

多摩大学の就職状況、キャリア支援課・教員による就職支援体制を紹介。ゼミ担当教員と保護者が連携し就活生を支えることが大切であること、卒業後も継続的に連携することが必要と伝えました。

○「保護者のための就職セミナー ～就活生をサポートするために～」

株式会社リクルートキャリア 就職みらい研究所所長 増本全氏

当日のアジェンダは、①「就職環境」の今～2020年卒の振り返り、②「労働環境」の今～これからの保護者支援。採用活動スケジュール、2019年卒採用充足状況、2020年卒大卒求人倍率・内定率の推移、インターンシップの現状、学生の志向変化、保護者ができる支援などを解説しました。

○「多摩大学のキャリア教育の取り組み」 初見康行 経営情報学部准教授・就職委員

キャリア・デザインの講義は就活のペースメーカー、インターンシップへの参加は就活の第一歩。保護者の方には学生の①キャリア・デザイン科目の履修、②インターンシップへの参加をお願いします。

○キャリア支援課職員を交えての質疑応答

会場からは、「企業は学生のどのようなところで人柄を見ているのか?」「就職活動に適した髪型を教えてください」などの質問があり、質疑応答が行われました。

### 第2部 ゼミ別懇談会・キャリア相談会・事務局個別相談会

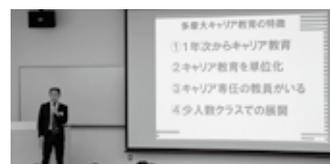
ゼミ別に各教室に移動し、担当教員がゼミ内での学生の様子や学習状況などについてお話ししました。またキャリア相談会ではキャリア支援課職員が就職活動での悩みや質問にお応えし、事務局個別相談会では学生生活や授業に関して個別に相談に応じるなど有意な情報交換の場となりました。



杉田文章副学長（兼）学部長の講演



増本全氏の講演



初見康行就職委員の講演



保証人の皆様と教職員との懇談

## 地域再発見

多摩地域の名所・旧跡 ⑤

### 日野宿本陣（日野市）

#### 新選組の剣士も滞在した都内唯一の本陣建物

江戸時代、甲州道中の日野宿は江戸日本橋から10里（約39km）、府中宿と八王子宿という大きな宿場に挟まれた小規模な宿場でした。しかし、多摩川の渡し場の管理を担うなど甲州道中における重要な拠点で、街道沿いには本陣と脇本陣、その向かい側には問屋場がありました。「本陣」「脇本陣」とは公家・大名・幕府役人などが休泊する施設で、「問屋場」は人馬の継ぎ立てなどの宿場業務を行う施設のことです。甲州道中は東海道や中山道に比べると交通量はかなり少なく、参勤交代で通過する大名は高島藩諏訪氏、高遠藩内藤氏、飯田藩脇坂氏の信濃国三藩に限られ、日野宿は一般的に休憩用の宿場でした。日野宿には佐藤隼人家（上佐藤）と佐藤彦右衛門家（下佐藤）の2軒の佐藤家が軒を連ね、代々日野本郷の名主と問屋を兼帯していました。上佐藤は本陣、下佐藤は脇本陣を担っていましたが、嘉永2年（1849）正月18日の大火により双方の建物は焼失しました。現在の本陣建物は佐藤家当主の佐藤彦五郎俊正（下佐藤家）が文久3年（1863）4月に上棟し、元治元年（1864）12月から使用しているもので、大きな改修が加えられることもなく引き継がれてきました。

佐藤彦五郎は嘉永初年頃天然理心流三代近藤周助に入門し、同7年（1854）に免許皆伝を得るほどの腕前で、慶応2年（1866）自宅に道場を開きました。また、新選組結成以前から近藤勇や土方歳三と親交があり、精神・金銭の両面から支援もしました。道場では井上源三郎や沖田総司らも剣術稽古を行うなど、日野宿本陣は歴史の大きな転換期に深く関わっていたといえます。下佐藤家は慶応4年（1868）2月に徳川氏より苗字御免の申渡しを受け、同年3月以降は本陣を称しています。式台のある木造平屋建て、切妻造瓦葺屋根の建物は都内で唯一現存する貴重な本陣建築物として、2003年10月、日野市の有形文化財<sup>\*1</sup>に指定されました。

<sup>\*1</sup> 東京都教育委員会は長期間脇本陣として営業していたことから史跡「日野宿脇本陣跡」（2010.3）、日野市教育委員会では都内唯一の本陣建築であることから有形文化財「日野宿本陣」に指定しています。

<sup>\*</sup> 多摩大学において「多摩地域」とは、多摩川と相模川に挟まれた大きな三角地帯、さらに三浦半島なども含めたエリアを広域多摩地域と捉えています。



本陣建物外観



冠木門（かぶきもん）



井上源三郎資料館



日野宿問屋場・高札場跡

## 多摩市長表敬訪問、学内報告会で優勝を報告

多摩大学体育会フットサル部は、2019年8月に岸和田総合体育館（大阪府）で行われた「第15回全日本大学フットサル大会全国大会」で優勝し念願の大学日本一を達成、さらにルールを守って良いプレーを行ったことを称えるフェアプレー賞も受賞しました。優勝を祝して選手たちは、9月17日に阿部裕行多摩市長を表敬訪問、26日には学内報告会にて優勝の喜びと応援への感謝の気持ちを伝えました。

2019年9月17日、フットサル部選手21名、マネージャー1名が、顧問の杉田文章 副学長(兼)経営情報学部長、福角有紘監督とともに阿部裕行多摩市長を表敬訪問し優勝を報告しました。市長から優勝の感想をたずねられた選手たちは「人生で一番幸せな瞬間だった。日本一を目指してみんなで一丸となって戦ってきて、全員への感謝の思いがある」「4年生最後の年に優勝を経験し、後輩に優勝できるチームという良いイメージを示すことができた。今後のフットサル部にとってプラスとなりうれしく思う」。キャプテンの南雲颯太さんは「昨年の東京都大会では準決勝で敗北。その後の1年間は全国大会優勝を目標に頑張ってきたので、今回このような結果で終わることができて良かった。試合中はチームの流れがよくなるように意識して声を掛け合うようにした。厳しいこともあったがみんなで乗り越えてきた。練習も自主性をもって取り組み、自分にとってはとても濃く楽しい時間だった。今後の目標は連覇です」。市長からは祝福と今後の活躍への期待、さらに「優勝をこれからの人生の糧にしてほしい」と激励の言葉をいただきました。



阿部裕行多摩市長(前列右から3人目)を囲んだ集合写真

9月26日には多摩キャンパス T-Studio にて優勝報告会が催され、顧問の杉田副学長(兼)経営情報学部長は「創部から8年目。選手たちはご父兄、友人、教職員など多くの人に支えられて一歩ずつ前進。ご指導いただいた監督やコーチ、選手たちの努力が積み重なって夢が叶った。多摩大のシンボルであるフットサル部を支えながら大学も前進していくのだと、そういう気持ちで大学一丸となって応援していただけたらと思います」、福角監督は「アスリートとしてだけでなく、礼儀正しい、時間を守る、仲間を大事にするなど人間性の部分を整えることも目指してきた。学生時代の4年間をフットサルだけでなく、オフ・ザ・ピッチの部分も成長してくれればと思う。選手たちは主体性をもって練習のスケジュールを考え、自分たちで問題も解決してきた。本当に頑張りました。今後とも応援をよろしくお願いいたします」と挨拶しました。キャプテンの南雲さんは「チーム全員が一つになって目標を達成することができるように頑張っていきたい。たくさんの人に応援されて自分たちが活動できていることを実感しています。これからも自分たちらしく活動していくので、応援をよろしくお願いいたします」と選手を代表して学生や教職員を前に今後の抱負とともに感謝の言葉を述べました。

